

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑤

IT機器を使って手に入れた

一人で過ごす自分の時間

IT機器が定着しない理由の一つに、機器の設置の煩わしさが挙がる場合があります。そこで今回は長きにわたり、ベッド上での余暇時間の過ごし方を模索し、タブレットを導入したことにより、活動・参加が拡大した方の支援についてご紹介します。この支援は相談支援専門員の方からの依頼により開始しました。



30代のBさんは、日頃母の介助のもと、ベッド上でテレビ鑑賞や読書をしていらっしゃいました。身体状況は若干の手指の動きと、頸部、顔面筋の動きがあるのみで、身の回りの動作のすべてに介助が必要で、母は本人のそばを離れることが難しい状況でした。今まで様々な方法を検討しましたが、いずれも機器設置の煩わしさもあり、実用化できずにいました。本人のニーズである、①インターネットでいろいろな情報

を閲覧したい、②メールなど外部との通信がしたい、を踏まえ、再度母と本人を支援しているヘルパーの設置の簡便さも視野に入れて検討を行いました。

まずは、どのタブレットを使用して、どこを使って、どのように、何の機能（アプリ）を使って操作するのかを念頭に、iPadとAndroidのタブレットの操作性を比較しました。iPadはスキャンニング機能でほっぺタッチスイッチを使用し、マウス機能が使えるAndroidは口（くち）マウスを使用し、それぞれ操作の体験を行ないました。その結果Androidタブレットを選択し、口（くち）マウスで操作



をすることにしました。加えて、タブレットで使用できる学習リモコンを選定し、電気やテレビ、エアコンが操作できるように設定しました。固定具はクリップ式の蛇腹タイプとして、緊急時用のコールは、ワイヤレスのホームコールを導入しました。現在は、母は本人のそばを離れ庭のガーデニングの時間がもてるようになり、本人はメールやLINE、インターネットなど使用時間が拡大し、生活で定着しつつあります。

このIT支援を通して、支援は、本人の身体機能やニーズに合わせた機器の選定だけでなく、介助者の設置の容易さや家族を支援するヘルパーも含めて環境調整することが重要であると感じています。今後生活に定着することで、母の趣味活動の時間の確保、そして本人の活動や参加に繋がるのではないかと考えます。

（一木 愛子）